

1. 背景

1.1 現在の日本

現在世界第3位の経済規模を持つ日本が、今後1億2千万人の人々の生活を維持、向上していくためには、付加価値を生み出しそれを元に社会の経済社会の発展をはかっていかなければならない。特に、人々の暮らしの基礎となるエネルギーや食糧については、一次エネルギーの自給率が4.4%、カロリーベースの食糧自給率が39%との言う状況で、これらを安定的に確保するためにも、これらに見合う付加価値を生み出す必要がある。

そのためには、時代とともに変わりゆく世界の市場を考えると、ありとあらゆる付加価値の生産の可能性を拡大していく必要がある。もちろん、これまで日本経済の屋台骨を支えてきた基幹産業やすでに世界の市場に進出している新興大企業の活躍が重要であることに疑問はない。一方、多様で新たな起業、特にユニークな発想を活かした小規模なスタートアップは、大きな成長に結びつく可能性がある。また、多様な人々、特に若い人々が起業することは、大きな生きがいを感じて活躍していくという点からも、日本社会の活性化に大きく寄与すると考えられる。

「日本再興戦略2016—第4次産業革命に向けて—（平成28年6月2日閣議決定）」でも「イノベーション・ベンチャー創出力の強化」が一つの柱に位置付けられ、「ベンチャー企業へのベンチャーキャピタル投資額の対名目GDP比を2022年までに倍増することを目指す。」とのKPIが設定されている。そのために、「ベンチャー・チャレンジ2020（平成28年4月19日日本経済再生本部決定）」の実現が求められている。

この、「ベンチャー・チャレンジ2020」では、米国シリコンバレーを「起業家、起業支援者、企業、大学、研究機関、金融機関、公的機関等が結びつき、新たな技術やビジネスモデルを用いたベンチャーを次々と生み出し、それがまた優れた人材・技術・資金を呼び込み発展を続ける『ベンチャー・エコシステム』」と捉える一方、「現在、我が国にベンチャー・エコシステムは存在するだろうか。残念ながら、答えは否である。」と述べ、政府が目指す「2020年のベンチャー・エコシステムの絵姿」を示している。その絵姿とは「国内外の幅広い者による自由闊達な連携・競争が、地方も含め日本全体で活発に行われることを通じて『我が国の経済成長の起爆剤』となり『世界共通の社会課題の解決に貢献』するベンチャーが、自発的・連続的に創出される社会を実現する」というものである。

また、「ニッポン一億総活躍プラン（平成28年6月2日閣議決定）」でも、一億総活躍の観点からも、「希望を生み出す強い経済」の実現のために、「イノベーション創出・チャレンジ精神に溢あふれる人材の創出」が必要であるとされ、同様のベンチャー・エコシステムの創出が求められている。

1.2 スタートアップと日本

これまでこのような起業を促すと言う点では、ベンチャー促進、支援などの形で様々な方策が講じられてきた。「ベンチャー・チャレンジ2020」において触れられているものだけでも、ストックオプションの導入（1995年）、エンジェル税制の創設（1997年）、ファンド法制の整備（1998年）、新会社法による最低資本金規制の撤廃（2006年）産業

「多様で活力ある小規模スタートアップを促進するエコシステムの構築に関する研究会報告書」

革新機構によるベンチャー投資（2009年）等がある。また、同資料のパンフレット版においては、「ベンチャー育成ステージ別ベンチャー支援施策マップ」、「支援環境整備プレーヤ別ベンチャー支援施策マップ」及び「世界への接続人材・企業レベル別ベンチャー支援施策マップ」が示されており、資金の支援、施設の建設、制度の整備などの多様な策が打たれ、それ自身が今後の起業促進に向けての重要な蓄積であるとともに、徐々に成果が出始めている。ただし、米国や中国などの諸外国に比べると、まだまだ活性化の余地は多く、期待される。

1.3 スタートアップのメッカ、シリコンバレーの特徴

スタートアップが盛んな米国の中でも、特にそのメッカとされるのがカリフォルニア州のシリコンバレーであるとは衆目の一致するところである。シリコンバレーが具備しているスタートアップを促す要素は、シリコンバレーをよく知る有識者によれば、以下のようものとされる。

- ① 優れた研究機関
- ② 豊富な資金源
- ③ すでに起業した企業群及び起業経験者
- ④ 弁護士、会計士、コンサルタントなど企業やその後の経営に関わる様々な専門家

これらの要素が、発想の多様性をはぐくむ多様な文化的背景を持った人々とともにサンフランシスコ湾のベイエリアに集結していて、オープンかつ失敗に寛容な文化の下で、様々なスタートアップを促進するエコシステムが形成されている。

（AZCA Inc.石井正純氏：産学官連携ジャーナル 2014年8月号）

これらが、もちろんシリコンバレーでのスタートアップの成功確率の多少の向上には貢献するとされるが、それ以上にその環境の下で可能性に挑戦する人々や失敗にくじけず再挑戦する人々を引きつけ、起業件数が大変多いことが多くの成功例が出る結果となっている。

多くの成功がなされることで、スタートアップ促進の機能が向上し、またそれ自身が仕事として発展し、拡大することで、エコシステムが発展していると考えられる。